

令和6年度社会教育委員会議 報告書手交式 概要録

1 議事

- (1) 報告書の手交
- (2) 懇談

2 日時

令和7年(2025年)6月9日(月) 11時45分～12時00分

3 場所

札幌市教育委員会5階 教育長室

4 出席者

- (1) 委員(1名)

片岡副議長

- (2) 事務局(6名)

山根教育長、廣川教育次長、井上生涯学習部長、新津生涯学習推進課長、
上原社会教育担当係長、大山職員

5 開催形態

公開

6 主な内容

- (1) 報告書の手交

片岡副議長から、山根教育長へ「札幌市社会教育委員会議報告書(令和6年度)」の手交を行った。



(2) 懇談

① 片岡副議長からご発言

令和6年度の会議では、「地域学校協働活動を通じた地域づくり」をテーマに熟議形式（少人数でのグループワーク）にて議論を行った。この報告書のように議論が形となり、それに基づいて実践が行われ、教育行政へ反映されていくものと思う。議論の要旨としてはこの報告書に記載されている内容に尽きるが、つまりは大人の意気込みや学校・先生方との協働などの基本的なものを積み上げていくしかないのが、社会教育の系譜だと考えている。社会教育委員会議においても、これらを基礎としながら札幌市の次なる取組へつながるよう、教育委員会からの助言も生かしながら、また引き続き議論していきたいと考えている。

② 山根教育長から報告書に対する謝辞

委員の皆さまにおかれましては、全4回にわたる会議の中、非常に活発な意見交換を重ねていただき、心よりお礼申し上げます。今回、地域学校協働活動についてご議論いただいたが、子どもたちは学校だけでなく地域全体で育んでいく必要があるという考えに基づく取組として、地域のコミュニティが近年疎遠となってきた状況の中では、この事業や活動の果たす役割が一層大きくなってきていると思う。また、学校教育や社会教育という側面だけでなく、地域のまちづくりという観点においても、このような取組の意味が大きくなっているように感じている。これは不登校の子どもたちも増えてきている中で、学校で出来ることの限界、学校が子どもの受け皿の全てではないということがより顕在化してきた結果ではないかと考えている。そういった意味では、今回ご議論いただいたように、こういった取組を活性化させていくことに加え、地域学校協働活動にかかわらず、子どもたちを見守る、育むという観点、社会教育の観点から何ができるかについて、今後ともご意見をいただきながら取り組んで参りたい。